

月刊誌

ポエム

「詩を作る人も詩を読む人も詩人」
心豊かな美しい人生を



3

1988

No.178

昭和51年4月8日第3種郵便物認可
昭和63年3月1日発行（毎月1日発行）

ポエム 一七八号 ©

編集人 木幡日出子
発行人 明石誠三郎

発行所 〒100 東京都豊島区東池袋五丁目17番2号 晴文社
〒113 東京都文京区九八七 〇五七 振替東京八〇三六一九六

定価三〇〇円（送料別）
年分三六〇〇円（送料別）

1988年 4/13 水 7時

東京文化会館小ホール
入場料=¥3,000(全自由席)



Erika Inoue

井上栄利加

ハープリサイタル

Sharp Recital

マネジメント

梶本音楽事務所 ☎03(573)3588

SAISON ☎03(237)9990

TICKET SAISON ☎03(980)9990

Marui Ticket Guide ☎03(363)0101

CN21 プレイガイド ☎03(253)7000

都内主要プレイガイドでチケット発売中

思うこと

木幡日出子

●ロドルフォ・ウィツジグ・グチーラ氏は、まだ二十五歳の新進の人類学者で、新聞記者として活躍しながら詩を作っている人です。日本の俳句に興味を持って、ポルトガル語で三行の短い詩、つまり俳句に近いものを作っております。何冊かの詩集も上梓しております。氏の最大の傑作は、カルメン夫人との間に生まれた二才未満のアルツール君だそうです。

●一時的ですが、左記の処に文書連絡事務所を設けました。書信等は新住所宛にお願いいたします。

〒一七〇 東京都豊島区東池袋五―一七二―一 ポエム編集部

●事務所の件では多くの方々に心配していただき、恐縮しております。須藤伸一様をはじめ沢山のご厚志あるお申し出をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。一月の二十七日に移転完了いたしました。慌しい二ヶ月間でした。なおポエムの発送用の封筒、その他の封筒には旧住所が印刷された封筒をしばらく使用いたしますが、諒解いただきたくお願いいたします。

●木村徳兵衛さんが『木村徳兵衛詩集』を上梓なされました。河西新太郎氏が抄論を寄せています。(近文社刊)

●生路洋子さん、河菜あちさん、切手をありがとうございました。

(都内本誌常備店)
池袋西武11階 詩の本の店 ぼえむ・ぼろうる
(読者へのお願い)
本誌はできるだけ書店か支部にてお求めください。
直接購読料は一年分三千六百円(送料共)です。
ご送金は振替(東京八―一三六二九六 晴文社)か
現金書留で、必ず第何号よりと購読開始の号を明記してください。
住所変更の方は何月号からとご連絡願います。
本誌を一層広く、多くの方にご愛読いただきたく、ご友人にもおすすすめいただければ幸いです。

読者原稿募集

(投稿規定)
本誌への投稿はどなたでも自由です。意欲的な詩稿を送ってくださることを期待しています。ただし投稿原稿の返却には応じかねますので予めコピーしたうえでお送りください。掲載されました作品は規定の贊助費(二頁(46字×18行題字込) 詩人協会員千円、一般読者は二千円)を納入して頂きます。
尚、原稿はわかりやすく、正確にお書きください。他に評論、随筆等の原稿もお待ちしております。
40円切手のカンパにご協力を!

晴文社*詩集

伝承の野を越えて

氏は単独者としての確固たる思想をもった詩人である。詩人たちがうたうべき主題を喪失しつつある現代において、氏が繰り返し執拗にイメージする「故郷」の原風景に、何人も打たれずにはいられない。(木津川昭夫)

田中国男詩集
1500円 千250
晴文社選書

又サンタラ詩抄

この本は長い間待たれた訳詩集である。訳者が10年もかけて選びぬいて編んだわが国で始めての、現代インドネシア詩集である。この本から学びとれるものは、実にはかり知れない貴重なものである。

印堂哲郎訳
1200円 千200
晴文社選書

——インドネシア現代詩の前衛たち——

インドネシア文学者の前に、今まさに新しい世代が生まれつつある。本書には詩を書くものひとりとして、訳者自身の眼で見、肌で感じ共感した作品を広く知ってもらいたいという願いで一五名の詩人の作品を紹介している。彼等がどんなことに怒り、悲しみ、何に感動し、どんな問題をかかえているかを知ってもらいたい。

果實の抵抗

この詩人はシャイな文明批評家で、スノビズムの横行する詩界では、異色の超俗人である。また、寺田政明画伯の装画・題字は心のこもったもので、本を手にするのことも楽しい。(木津川昭夫)

納富教雄詩集
題字装画・寺田政明
2000円 千300

秋津島

20年の歳月をかけて描く奇才中平作太郎のこの詩集は、庶民としての悲苦と哀楽をユニークな複合的な造語で書き綴られ、自伝的回想のロマネスクをもって意蘊の流れる文学として独自の美学を構成している。(鎗田清太郎)

中平作太郎詩集
2000円 千200

ヒョウタン・ナマズ

『真の長者さま』『遺囑』『邪夢・鎮魂歌』と巡る渦輪をふたたび譚話の端に昇流させた。ただ「正の花」の闇里のイメージの干を、不透明な灰色の蛍光を放ちながら、とてつもなく大きなヒョウタン・ナマズが遠くを泳ぎまわっているのを見送りつつけるのみである。(三樹青生・東京大学教授)

辻田三樹恵詩集
A版変形100頁
1000円 千200

ゆがんだ□*朴正萬(韓国)

さあ 冷や飯でも少し食べなけりゃならない

青二才のこの歳で

絶え間なく消えうせるのは 本当にくやしすぎるぜ

糸切れのような明けの星ひとつも見ることができずに

無情 無情 哀れにすぎる歳月

フランス

詩人のタマゴの為の碑文*

ロドルフォ・ウィツジグ・グチーラ
河井美津子訳

私のことは

風に書いて下さい

詩人になりたいと思っただけれど……

暇がなかったんです

このままの私を愛して下さい

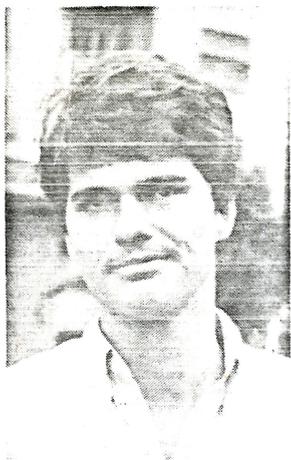
星の世界の音楽堂を

めっちゃめちゃにして落ちてきた

星みたいなもんです

無窮の空の汽車に乗りおくれ

あなたの家の庭に遊びに来たんです



88ソウル五輪



9/17日 10/2日